

ひろまれ念仏

vol.16 (ver3.0)

2021年 10月 発行
山中温泉 白鳳凰山 恩栄寺



ごあいさつ

今年も「報恩講」の季節がやってまいりました。親鸞聖人の御命日をご縁として勤まる報恩講、今年こそは例年通りになと思っておりましたが、コロナウイルスの影響も未だ心配されることから、今年も例年とは違った形でお勤めさせていただきます。

なお、報恩講と合わせまして、前々住職十三回忌法要と住職継承法要もお勤めすることといたしました。継職の法要がなかなかお勤めできずにおりましたが、一つの区切りとして、なんとかお勤めさせていただきたいと考えております。皆さまどうぞ、報恩講共々、お参りくださいませ。

◆法要のご案内◆

●日 時●

◆報 恩 講

1 11月1日 (月) 午後2時 (婦人の集い)
午後7時半

2日 (火) 午前10時 (ご満座)

◆前々住職十三回忌法要・住職継承法要

1 11月2日 (火) 午後1時30分～

●ご講師●

鯖江市 明正寺

畑中 尚治師

※コロナウイルス対策のため、マスク着用やアルコール消毒、換気などにご協力をお願いいたします。

皆さまどうぞお参りください。恩 栄 寺

住職の

勝手に仏教書紹介

『お寺の掲示板 諸法無我』

江田智昭 著

全国のお寺の掲示板に書かれたありがた〜い言葉を集め、そこから仏教の教えを味わってみようという一冊。そしてなんと！恩栄寺の掲示板も取り上げていただいております、しっかりと深掘りをいただきました。皆さまぜひどうぞ！





涅槃に至る道「八正道」、いよいよ最後となりました。最後の一つは「正定」です。

「正定」とは「正しく定める」ということ。「定」とは、心をひとつの対象に集中し、乱れていない状態をいいます。インドの言葉では「サマーディ」といいますが、これが漢訳されますと「三昧」となります。「三昧」という言葉は「カニ三昧」や「読書三昧」など、「一つのことに専念して楽しむ」という意味で使われますが、元々は仏教語。瞑想を通して心が定まった状態を「三昧」といい、別の言葉に直すと「定」となります。

また、その逆の状態、心があつちにいったりこつちにいったりしている状態を「散」といいます。

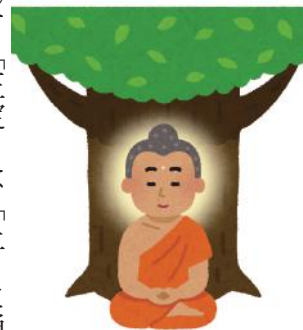
私たちの心は、普段はこの「散」の状態にあります。前回の「正念」でも書きましたが、私たちの心は、なにもしないでおくと、過去のことから現在のこと、そして未来のことへと行ったり来たり、一つのことに定まらず留まらず、せわしく常に動き続けている状態です。そんな「散」の状態にある心を、正しく整え、定めていく。これが「正定」ということになります。

実際には「瞑想」によってそれを実践していくのですが、瞑想にも二種類あり、一つは「サマタ」、もう一つは「ヴィパッサナ」と呼ばれるます。「サマタ」は「止」、「ヴィパッサナ」は「観」と訳され、二つを合わせて「止観」とも言われますが、これが仏教の瞑

想法になります。

そして前回見ました「正念」は「観」に通じると言われます。「今ここ」一瞬一瞬に心を振り向けて、丁寧に「観察」していくことによって、気づきを得ていく方法です。

そして「正定」は「止」に通じています。「散」と呼ばれる乱れた心を、一つの対象に集中していくことで定めていく。この「観」と「止」、「正念」と「正定」の実践によって、正しい智慧、すなわち「正見」が完成されるのです。



そして、「正念」と「正定」の実践のためには、これまで見てきた「正思惟・正語・正業・正命・正精進」が必要不可欠です。心で思うこと、言葉にすること、体で行うことを正しく整え、正しい生活と、正しい努力をしていく。そして、乱れた心を「正念」と「正定」の実践を通して整える。それによって初めて正しいものの見方「正見」、すなわち「智慧」に目覚めていくことができる、というのが「八正道」の教えになります。

そしてこの「八正道」を修めていくことが、お釈迦さまの目覚めた真実、あらゆる苦悩から離れた心静かな安心の境地である「涅槃」へとたどり着くための方法、となるのです。

編集後記

今年は選挙が続く選挙イヤーとなりました。思えば選挙は「選び捨て・選び取り」が行われるもの。選挙に限らず何事も選ばれる人と選ばれない人がいるのが人間世界の在り方です。対して、「誰一人漏らさない」というのが仏さまの在り方。私もあなたも捨てられない。そんな安心をいただけるのが、お念仏の教えでした。